



岐阜県の多治見市、土岐市、瑞浪市、可児市からなる東美濃地域は、7世紀頃からやきものの産業と文化が息づく地域。原料となる陶土の採掘業者、製造を担う窯元、流通を担う商社など、原材料から製造機械メーカーまで含めて関連企業数百社が集積する、世界有数のやきものの一大生産地です。ここでつくられるやきものは「美濃焼」と呼ばれ、日本の茶道文化と深く交わり、進化を遂げてきました。現代においては、作家による陶芸作品からカップや皿などの日常食器、建築資材のタイル、ニューセラミックスまで、多種多様なやきものがつくり続けられ、近年では若手陶芸家やクリエイターの活躍が広がり、新しいやきもののムーブメントが生まれています。この地域を「セラミックバレー美濃」と名付け、世界が憧憬するやきもの文化の創造へ。長江陶業は、この地で生み出されるタイル文化を国内外へ発信し続けます。